

3人4脚



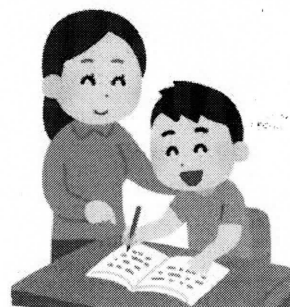
R 3. 7 / 2 (金) 第4号
二宮西中学校学校だより
発行者: 和田 智司

夏休みまでの授業日数・・・あと 12 日!!

～反省なくして進歩なし・・・今一度お子さんの取り組みをご確認ください。～

ここ数日梅雨前線の活躍のため、ジメジメした日々が続いています。早いもので1学期も残すところ3週間となりました。学校に来るのもあと12日となった今、お子さんの様子はいかがでしょうか。・・・

いくつかの教科で期末テストの間違い直しの課題が出されていますが、この間違い直しを自主的に取り組むか・取り組まないか、あるいは課題をやらないか。これらの差は大きいと思います。まさしく“反省なくして進歩なし”です。今一度お子さんの取り組みを確認してみてください。



期末テストが終了してからすでに9日が過ぎ、子どもたちは部活動に一生懸命取り組んでいます。先週の6/23(水)には壮行会が行われました。・・・3年生にとってはこれからの大会やコンクールは中学校最後のものになります。「練習は裏切らない」ことを信じ、さらに一層熱心に練習に取り組むとともに、その姿を後輩たちに見せることにより、より良い部活動を目指してほしいと思います。

結果より過程を・・・心をひとつに頑張りました!!

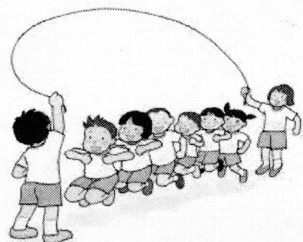
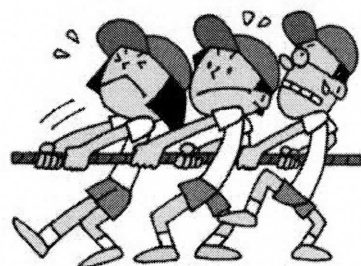
～色々な場面での笑顔が記憶に残っています。素晴らしい笑顔に「ありがとう」!!～

好天に恵まれた6/12(土)。今年度最初の大きな学校行事である第42回の体育祭が開催されました。当日は、ご多用の中、多くの保護者の方にご参観をいただきました。心より御礼申し上げます。また、今年度も新型コロナウイルス感染症感染拡大防止を図りながらの実施となりましたが、ご理解・ご協力いただきましたことに対して重ねて御礼申し上げます。多くの方の支えによって予定通りプログラムを実施することができました。

私はテントの最前列にずっといたため、子どもたちの頑張る姿を近くで多く見ることができました。コロナ禍のため、数多くのプログラムが工夫されたコンパクトな体育祭であったにもかかわらず、生徒は例年と変わらぬ前向きな気持ちでそれぞれの種目に全力で取り組んでいました。

一番印象に残ったのは、「子どもたちの笑顔」です。また、自分が競技をしていない時にも各応援席でクラスの仲間、そして同じ色の仲間を応援する姿に笑顔が満ち溢れていました。この笑顔が今回の体育祭の素晴らしさを物語っていると思います。・・・色々な場面での笑顔が記憶に残っています。素晴らしい笑顔に「ありがとう」!!

今回の体育祭は、逆境に負けず、昨年度以上に知恵と工夫をこらして創り上げた体育祭でした。そして、生徒と教職員を誇りに感じる体育祭となりました。選抜リレーの前に行われた「みんなでジャンプ」は、どのクラスも、Aグループが跳んでいる時はBグループが、Bグループが跳んでいる時はAグループがしっかりと応援していました。結果より過程を・・・子どもたちは心をひとつに頑張りました。さあ、次は秋麗祭です。この頑張りが秋麗祭でもきっと発揮される。私はそう信じています。



『こころをみがく』に包含された「学」について考える。

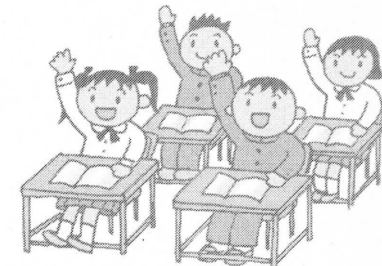
公立の学校は全国のどこに行っても『学習指導要領』というもので学ぶ内容に差異がないように設計されています。しかし、学校がおかれた環境は千差万別なため、学校ごとの特色ある取り組みがなされています。それぞれの学校で『学校教育目標』を設定し、どのような生徒を育成していくのかを明確に打ち出すようにしているのはそのためです。



この『学校教育目標』は家庭や地域と共有して、生徒にかかわるすべての大人が同じ目標に向かうことが重要です。二宮西中学校では『こころをみがく』を学校教育目標として掲げています。また、本校ではめざす学校像として「互いに笑顔であいさつを交わす二宮西中学校」を掲げ、その実現に向けての具体的な取り組みとして「学・心・命」の3つの柱を考えました。

この3つの柱のうち、今回は「学」の中に書いてある「確かな学力」についてお話しします。ここでいう『学力』とは、最近では『資質・能力』といわれるものです。この『資質・能力』とは、「何を理解しているか」「何ができるか」という『知識及び技能』、「理解していること・できることをどう使うか」という『思考力、判断力、表現力等』、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」という『学びに向かう力、人間性等』といった三つの柱(観点)に整理されています。すべての授業はこの三つの観点の育成を目指しながら進められます。

つまり、正解を答えられたかどうかだけが『学力』ではないということです。わかったことを使って新しい課題を解決させる方法を考える(理解した内容を役立てる)。うまくいなくても、粘り強く学ぶために取り組もうとする力(意思的な側面)を含めて『学力』と位置付けられています。



「10年ひと昔」と言われていたころは、革新的な技術開発には10年程度必要だったのかもしれませんが、今や数か月で新しい機能が生まれることはよくあります。これは、何も知ろうとしないと、社会の流れについていけなくなってしまうことを意味しています。



私は、大学受験に失敗し浪人生活を送っていたころ「大学に合格できたら勉強しなくてもいいんだ」と信じていましたが、生涯学び続ける必要があることは昔も今も変わらなかったのだと、教員になってから気づきました。学校でも家庭でも、正解が答えられなくても「なぜだろう」「どうしたらいいのだろう」と考える習慣が学ぶ意欲を育て、その積み重ねが『学力』を伸ばすことにつながると私は思っています。・・・今回は「学・心・命」の3つの柱の2つ目の「心」。特に『豊かな心の育成』についてお伝えします。

吐く(はく)と叶う(かなう)から学ぶ。

～マイナスの言葉よりも前向きなプラスの言葉を発しましょう!～

「吐く」という漢字は、「口」へんに「+ (プラス) とー (マイナス)」で成り立っています。口から出る言葉には積極的・前向きな「プラスの言葉」もあれば、反対の愚痴や不平不満の「マイナスの言葉」もあるわけです。それでは、「吐く」という言葉から「ー (マイナス)」を取り去ってしまったらどうなるのでしょうか?



「叶う」という字になるのです。思いや望みが叶うのは「プラスの言葉」を口癖のように発しているからともいえます。プラスの言葉がプラスの出来事を呼び寄せるのですよね。・・・これからは、みなさんと、マイナスの言葉よりも前向きなプラスの言葉を発しましょう! これは子どもだけではなく大人も同じですね。